

理研、産業界との交流会

産官学のネットワークで新技術・新産業創出へ

理化学研究所と産業界との交流会(第38回)が2月18日、東京都港区のオークラ東京で開催された。講演会や情報交換会を通して、理研と産業界がより一層連携を深めた。

主催は一般社団法人理研未来革新アライアンス。2024年10月にこれまでの「理研と未来を創る会」から、一般社団法人として新たなスタートを切った。冒頭あいさつした足立正之会長(株堀場製作所代表取締役社長)は「今回は理研未来革新アライアンスとして開催する最初の交流会。現代社会はパンデミックやカーボンニュートラル、地政学的な変化など多くの地球規模の課題に直面している。そうした中、科学技術を担うアカデミアや産業界の使命はますます重要となっている。理研の100年を超える歴史と精神をもとに、未来社会のビジョンを共有し、その実現に向けて産業界が協力することで新技術・新産業の創出を目指していきたい」と語った。

続いて、理研の五神真理事長が「科学技術が拓く社会変革と成長」と題して講演した。理研は今年4月から第5期中長期計画期間(7年間)が始まる。五神理事長は「第4期

後半に『TRIP構想』を打ち出した。分野を超えて理研の総合力を発揮するという計画だが、4月からの第5期ではTRIP構想を「発展させる」と強調。「新しい知恵が人類の課題を解決し、ビジネスのもとになる。その中心になるような理化学研究所にしていきたい」と意気込みを示した。

阿部文科相「更なる躍進を」

講演の部に続き、情報交換会が行われた。文部科学省からは阿部俊子大臣、野中厚副大臣、赤松健大臣政務官が出席。阿部大臣は今年1月22日に理研和光地区を視察したことに触れ、「学知の拡大と社会への貢献をミッションとして、卓越した研究を進めていると実感した。来年度(2025年度)からの新たな中長期計画の中で、さらに躍進していくことを期待している」と語った。一方、産業界に対しては「理研との交流を活発に行っていたが、その成果をさらなる成長と発展につなげていただきたい」と呼びかけた。



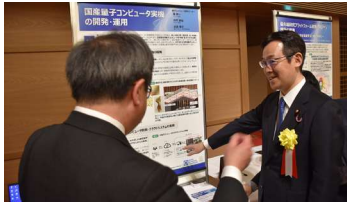
足立正之会長



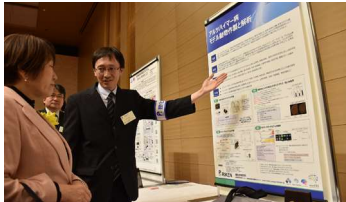
五神真理事長



「科学技術が拓く社会変革と成長」と題して講演する五神理事長



研究者に質問する赤松政務官④



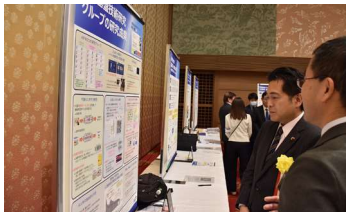
研究の説明を受ける阿部大臣④



阿部文科大臣
理研研究者らが企業関係者に解説。研究者や企業間および異分野業種との交流が図られた。なお、交流会には331名の参加があった。



文科省の塩見研究振興局長④ら



野中副大臣(右から2人目)